

被災地へ善意よ届け

川崎で広がる義援金活動

ミャンマーの大型サイクロンと中国・四川大地震の被災者を支援しようと、川崎市内で募金活動の輪が広がっている。市消防局の三人が国際緊急援助隊として中国に派遣されたこともあり、「大災害は人ごとではない」との思いが市民に募っているようだ。

(三木 崇)

救急医療など専門性が高い。海外の災害では国際団体医療を手掛ける医療法人財団に寄付することしかできない石心会(本部・同幸区)は、が、彼らの活躍を信じている。二カ所の被災地で活動する複と話す。趣旨に賛同した患者数の国際医療援助団体に法人からも義援金が届いているとして百五十万円を寄付している。

た。グループにも義援金を呼び掛け、五月末現在で約八十八万円が集まった。

石心会には「国境なき医師団」に個人として所属する医師もいる。辻田征男事務局長は「阪神大震災や中越沖地震では医師と看護師を派遣するなど、災害医療を重視してきた。中国に拠点を置く事業所も活発だ。富士通ゼネラル(同

市高津区)はグループとして約七十五万円を、拠点がある上海市嘉定区政府を通じて寄

付した。市は市役所や全区役所、支所の十カ所で十日まで、両被災地への義援金を募っている。

ミャンマー、四川を支援



中国などの被災者支援のため、石心会グループが行っている募金活動 幸区の川崎幸クリニック